



松戸市立総合医療センター

医療連携 News

第197号 (2023.10)



編集・発行 松戸市立総合医療センター 地域連携室

〒270-2296 千葉県松戸市千駄堀993-1 電話 047-712-2511 (代)

医療機関各位

<https://www.city.matsudo.chiba.jp/hospital/>

松戸市立総合医療センター
病院長 尾形 章

秋晴の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より、当院に対して一方ならぬご支援を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

医療機関の皆様方へ毎月お送りしております「医療連携News」を是非ご高覧いただき、
また患者さんへ必要な情報を提供いただけましたら幸甚に存じます。



小児専門外来 神経外来・アレルギー外来のご案内

今月号では、小児専門外来の神経外来・アレルギー外来をご紹介します。



写真左より、池原甫医長
(小児神経専門医)

森雅人小児医療センター長
(小児神経専門医)

大林浩明医長
(小児アレルギー専門医)



小児神経



常勤の小児神経科専門医2人と、外来では非常勤の小児神経科医2人も合わせた体制で診療しております。対象疾患は、てんかん、神経筋疾患、先天異常、発達遅滞、神経発達症、慢性頭痛、睡眠障害などです。具体的な症状としては、けいれん、発達の遅れ、意識がおかしい、手足の動きがおかしい、顔や目の動きがおかしい、歩けなくなった、落ち着きがない、学校でのトラブルが多い、眠れない、頭の形がおかしいなどの場合は、当院への紹介をご検討下さい。

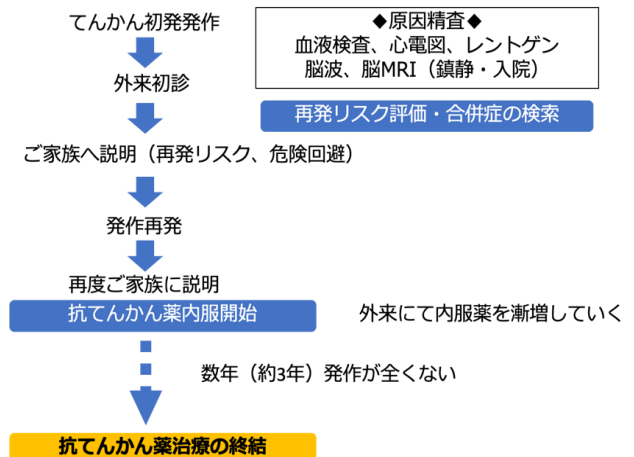
ご紹介いただく際には、当院の地域連携室を通して小児神経専門外来へご紹介頂くか、あるいは一般外来へご紹介下さい。一般外来の場合は診察医の指定は出来ませんが、小児神経専門医と連携して診療致しますので安心してご紹介頂ければと存じます。また、點頭てんかん、急性の歩行障害、運動麻痺、発達退行など緊急の対応が必要な場合には、当日の小児科責任医にご相談頂ければ、小児神経専門医と協議の上、最善の対応を検討させていただきます。

医療機関専用ダイヤル (047-712-2585) → 「小児科責任医」

【てんかん】

てんかんは約100人に1人の頻度の比較的高い疾患です。初回の発作の緊急対応から脳MRIや脳波などによる精査、合併症の検索、抗てんかん薬の治療開始および調整、外来フォロー、経過良好の場合の治療終了までを担当医および小児神経専門医が連携して行っています。難治である場合、外科的治療の適応である場合は、国立精神・神経医療研究センターなどの専門施設とも連携して診療も行ってまいります。小児期を超えても内服加療が必要な場合には、成人診療科へのトランジションも行ってまいります。初診の際には、これまでの成長・発達歴、また発作時の動画撮影があると迅速かつ正確な診断に近づきますので親御さんへご指導頂けると大変助かります。

病院でのてんかん治療の流れ



【神経発達症】

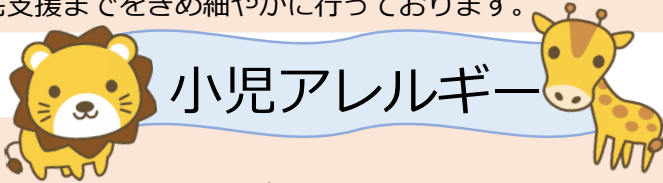
落ち着きがない、集団生活に馴染めない、かんしゃくが強い、学校でのコミュニケーションのトラブルが多いなどの場合には、自閉スペクトラム症、ADHDなどの神経発達症が背景にある可能性があります。ご本人ご家族が生活に困っているようであれば、小児神経外来への紹介をご検討下さい。問診や、当院の心理士の評価などを行い、診断および児・家族へのサポートを行ってまいります。症状によっては薬物治療もあわせて行ってまいります。初診時にはこれまでの成長・発達・生育歴および既往歴、本人のスクールパフォーマンスなどが判断材料になります。また、疾患の性質上、ご家族の捉え方は様々です。可能であれば紹介状には親御さんにどのようにご説明頂いたかを記載して頂けると連携がスムーズに進むと考えております。必要な場合には発達・心理評価を心理士の外来で行ってまいります。診療枠には限りがありますので、必ずしも迅速に面談・検査に繋がれない場合もあることをご了承下さい。行動障害が重度であったり、精神症状が疑われる場合、より複雑な抗精神病薬の調整が必要な場合などは児童精神科への紹介も行ってまいります。

【発達の遅れ】

首の座りが遅い、座位が取れない、つかまり立ちしない、歩かない、言葉が遅いなど、一般診療や健診で気になる点がありましたらまずは一般外来へご紹介下さい。発達の遅れは必ずしも神経疾患のみが原因とは限りませんので、まずは治療すべき身体疾患がないか精査を行います。それと同時に児の発達段階に合わせた介入も検討致します。当院では外来療育の機能は持ち合わせておりませんので適宜地域の発達センターや、リハビリ施設、療育施設への紹介を行ってまいります。鎮静が必要な検査(脳MRI、脳波、髄液検査など)が必要な際には、検査入院を行うこともあります。

【急性疾患】

けいれん重積、急性脳炎・脳症・髄膜炎、自己免疫性脳炎、急性運動麻痺、急性歩行障害などの急性発症、緊急度の高い神経疾患については当科PICUとも連携して、持続の脳波モニタリングなど集中治療を行っております。医師・看護師だけではなく、理学療法士、言語聴覚士、臨床心理士、検査技師、医療ソーシャルワーカーなど多職種によるチーム医療により、疾患の治療から家族支援、退院後のリハビリ、在宅支援までをきめ細やかに行っております。



小児アレルギー

東葛地区に数少ない小児科のアレルギー専門医を中心に、小児の食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息などのアレルギー疾患の診断・治療を行っております。原則としてガイドラインに準じた治療を提供しておりますが、患者さん・ご家族が治療内容を理解し、納得しなければ十分に効果を得られません。当科では、患者さん自身が自発的に治療に取り組み、小児科を卒業してからも疾患とうまく付き合えるように、患者教育にも注力しています。

ご紹介いただく際は、当院の地域連携室を通して一般外来にご紹介ください。担当医の指定はできませんが、ほぼ全ての患者さんの方針決定にアレルギー専門医が関与しており、専門外来の予約よりも早く受診できる可能性があります。

医師により早めの受診が必要と判断される患者さんについては、下記番号にご相談ください。

医療機関専用ダイヤル (047-712-2585) → 「小児科責任医」

【食物アレルギー】

当科では一般外来（平日午前中4診）のすべての曜日でエピペン処方登録医が診療しております。年齢・重症度・血液検査結果によらず、全ての患者さんに対応しておりますので、早期の評価や介入をご希望の場合はぜひご紹介ください。専門外来には複数品目の除去が必要となっている方や学童期まで治療が行き詰っている方を優先的にご予約いただいております。また、管理栄養士と協力し、よりきめ細かいサポートが可能な体制をとっております。

問診を重要視しておりますので、ご紹介いただく際は、患者さんの保護者にこれまでの病歴（被疑食材を食べて症状が誘発された、食べても症状がなかった、どちらのエピソードも参考にしています）を時系列でまとめて受診していただくようお願いください。（診療情報提供書には簡単な記載で構いません）また、他の医療機関を含めてすべての血液検査・負荷試験の結果もあわせてお持ちいただくようお願いください。

食物負荷試験については、原則入院で行っており、2020年度から土日・祝日以外のすべての平日で予約が可能になりました。予約には外来受診が必要になります。遅くとも受診日の翌月末までには予約可能なことが多く、あらかじめ複数の日程の候補があるとスムーズに予約の手続きができます。



8:45	来院、体調のチェック
9:00	病室のご案内、身体測定など
9:30	検査開始
12:30	最終負荷
13:30	昼食
14:30	判定
原則翌朝まで	症状に応じて経過観察

即時型食物アレルギーについては、食物負荷試験等により安全に食べられる範囲を判断し「食べて治す」指導を積極的に行っております。患者さんは治療として自宅で定期的アレルギーを摂取します。症状誘発時は原則当院で対応しておりますが、近隣の医療機関受診の際はご対応いただけますと幸いです。保護者には体重を常に把握しておくように伝えてあります。「誤食」による症状ではなく、「食べて治す治療」による症状で受診の場合は、その後の治療方針について、当科の一般外来を早めに受診（2週間以内）するよう促していただけますと幸いです。

食物負荷試験のみのご紹介も承っております。負荷食品・負荷量を指示していただくことも可能ですし、当科にプロトコルの決定をお任せいただくこともできます。診療情報提供書には「負荷試験のみ」とご記載ください。

卵黄を食べて数時間後に嘔吐するエピソードを繰り返すなどの、**食物蛋白誘発胃腸症（消化管アレルギー）**の報告が近年増加傾向にあります。特異的IgE抗体が陰性になることも多く、発症初期は感染性胃腸炎と区別が困難になることも多い疾患です。こちらについても診断・治療可能ですので特定の食材を摂取後に消化器症状を繰り返す場合は、一般外来をご案内ください。

【アトピー性皮膚炎】

通常の外用療法で管理困難な患者さんは積極的にご紹介ください。入院での治療にも対応しております。入院期間については、病状とご家族の要望に合わせて調整可能です。

例) 手技獲得のための日帰り～2泊3日の短期入院

寛解導入終了までの1～4週間程度の入院

学童期以降の重症者に対しては、JAK阻害薬の内服（12歳以上）、生物学的製剤の皮下注射（13歳以上）の導入にも対応しております。JAK阻害薬の内服については、導入時のスクリーニング検査とそれ以降の副作用チェックのみの受診で併診することもできますので、診療情報提供書にその旨の記載をお願いします。

【気管支喘息】

ステロイド吸入をしても毎月のように発作を起こしてしまうような、管理の難しい患者さん（ガイドラインのステップ3以上）は積極的にご紹介ください。長期管理については、環境整備や生物学的製剤（6歳以上）の使用も含めてご家族と相談させていただきます。

【アレルギー性鼻炎・結膜炎】

ダニ・スギの舌下免疫療法の導入・維持を行っています。要望に応じて5歳以下の低年齢でも対応可能です。

導入のみ、もしくは維持のみ（当科では最大90日分まで処方可能）の対応も可能です。

※処方登録の際の緊急受診先について

当科を登録していただいて構いません。診療情報提供書をお持ちでない場合は、診療費のほかに、非紹介初診加算料7,700円（税込）が別途発生する場合がありますので、事前に患者さんへお伝えください。

臨時休診等お知らせ (2023年9月15日現在)

10月 医師の休診			11月 医師の休診		
内科	松木医師	20日（金）	眼科	樋口医師	20日（月）
整形外科	弓手医師	2日（月）、6日（金）		豊北医師	24日（金）
	渡辺医師	10日（火）	脳神経外科	矢吹医師	16日（木）
脳神経外科	本田医師	27日（金）		渡邊医師	24日（金）
眼科	豊北医師	27日（金）	整形外科	弓手医師	24日（金）
10月 医師の代診					
耳鼻いんこう科	30日（月）	松葉医師→福井医師			
小児外科	10日（火）	松浦医師→小原医師			
	12日（木）、26日（木）	三瀬医師→小原医師			
10月 診療科の全休診					
小児脳神経外科	24日（火）、27日（金）				

